

## はじめに

本ガイドラインは、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修として、医療機関の機能や規模にかかわらず新人看護職員を迎えるすべての医療機関で研修を実施することができる体制の整備を目指して作成されました。

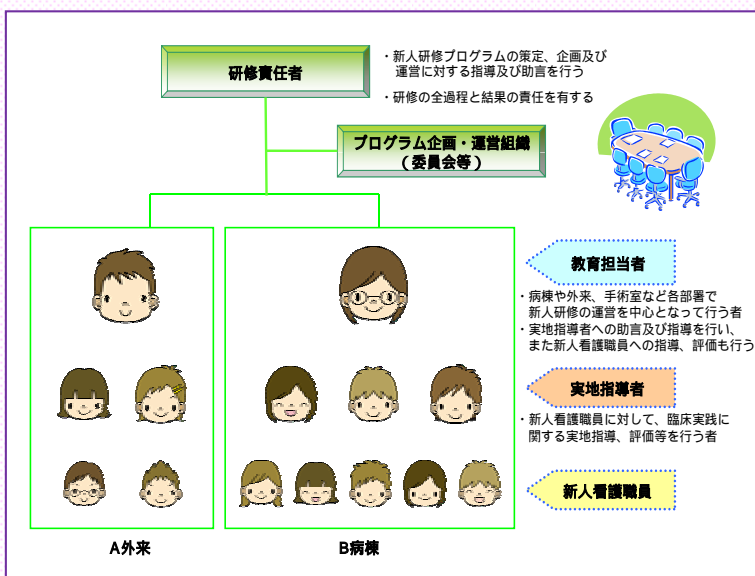
## 新人看護職員研修ガイドラインの基本的な考え方

### 【新人看護職員研修の理念】

看護は人間の生命に深く関わる職業であり、患者の生命、人格及び人権を尊重することを基本とし、生涯にわたって研鑽されるべきものである。新人看護職員研修は、看護実践の基礎を形成するものとして、重要な意義を有する。

新人看護職員を支えるためには、周囲のスタッフだけではなく、全職員が新人看護職員に関心を持ち、皆で育てるという組織文化の醸成が重要である。この新人看護職員研修ガイドラインでは、新人看護職員を支援し、周りの全職員が共に支え合い、成長することを目指す。

### 研修体制における組織例



### 【研修体制について】

支援する体制として、実地指導者、教育担当者、研修責任者、プログラム企画・運営組織を組織することが必要であるとしています。

専任・兼任や人数の配置は組織により異なりますが、それぞれの役割が明確であることが求められています。

### 【新人看護職員を支える体制の構築】

新人看護職員が臨床現場に順応し、臨床実践能力を獲得するためには、根気強くあたたかい支援が必要である。また、新人看護職員の不安を緩和するために、職場適応のサポートやメンタルサポート等の体制づくりが必要である。そのためには、新人を周りで支えるための様々な役割をもつ人員の体制づくりが必要である。

厚生労働省では、新人看護職員研修ガイドラインに基づいた新人看護職員研修の普及を推進しています。新人看護職員研修に関する情報は、厚生労働省ホームページをご覧ください。 <http://www.mhlw.go.jp/>

# 新人看護職員研修：研修内容と到達目標

新人看護職員の到達目標としてその項目と到達の目安を示しています。またその中でも特に1年以内に経験し修得を目指す項目を明確にしています。

所属施設や部署によって実施することが難しい項目は、集合研修や他部署(他施設)での研修によって修得することも可能としています。

：一年以内に経験し修得を目指す項目  
 到達の目安   ：知識としてわかる   ：演習でできる   ：指導のもとでできる   ：できる

## 看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標

		到達の目安			
看護職員としての自覚と責任ある行動	医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人権を擁護する				
	看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する				
	職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する				
患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する				
	患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する				
	患者・家族が納得できる説明を行い、同意を得る				
	家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する				
	守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する				
組織における役割・心構えの理解と適切な行動	看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する				
	病院及び看護部の理念を理解し行動する				
	病院及び看護部の組織と機能について理解する				
	チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する				
生涯にわたる主体的な自己学習の継続	同僚や他の医療従事者と安定した適切なコミュニケーションをとる				
	自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける				
	課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する				
	学習の成果を自らの看護実践に活用する				

## 管理的側面についての到達目標

		到達の目安			
安全管理	施設における医療安全管理体制について理解する				
	インシデント(ヒヤリ・ハット)事例や事故事例の報告を速やかに行う				
情報管理	施設内の医療情報に関する規定を理解する				
	患者等に対し、適切な情報提供を行う				
	プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う				
	看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する				
業務管理	業務の基準・手順に沿って実施する				
	複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する				
	業務上の報告・連絡・相談を適切に行う				
	決められた業務を時間内に実施できるように調整する				
薬剤等の管理	薬剤を適切に請求・受領・保管する(含、毒薬・劇薬・麻薬)				
	血液製剤を適切に請求・受領・保管する				
災害・防災管理	定期的な防災訓練に参加し、災害発生時(地震・火災・水害・停電等)には決められた初期行動を円滑に実施する				
	施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する				
物品管理	規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う				
	看護用品・衛生材料の整備・点検を行う				
コスト管理	患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する				
	費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する				

# 看護技術についての到達目標

		到達の目安			
環境調整技術	温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整 (例:臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整)				
	ベッドメイキング (例:臥床患者のベッドメイキング)				
食事援助技術	食生活支援				
	食事介助 (例:臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助)				
	経管栄養法				
排泄援助技術	自然排尿・排便援助 (尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。)				
	浣腸				
	膀胱内留置カテーテルの挿入と管理				
	摘便				
	導尿				
活動・休息援助技術	歩行介助・移動の介助・移送				
	体位変換 (例: 及び について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施)				
	関節可動域訓練・廃用性症候群予防				
	入眠・睡眠への援助				
	体動、移動に注意が必要な患者への援助 (例: 不穩、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助)				
清潔・衣生活援助技術 (例: から について、全介助を要する患者、ドレーン挿入、点滴を行っている患者等への実施)	清拭				
	洗髪				
	口腔ケア				
	入浴介助				
	部分浴・陰部ケア・おむつ交換				
	寝衣交換等の衣生活支援、整容				
呼吸・循環を整える技術	酸素吸入療法				
	吸引 (気管内、口腔内、鼻腔内)				
	ネブライザーの実施				
	体温調整				
	体位ドレナージ				
創傷管理技術	人工呼吸器の管理				
	創傷処置				
与薬の技術	褥瘡の予防				
	包帯法				
	経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬				
	皮下注射、筋肉内注射、皮内注射				
	静脈内注射、点滴静脈内注射				
	中心静脈内注射の準備・介助・管理				
	輸液ポンプの準備と管理				
	輸血の準備、輸血中と輸血後の観察				
	抗生物質の用法と副作用の観察				
	インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察				
救命救急処置技術	麻薬の主作用・副作用の観察				
	薬剤等の管理 (毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む)				
	意識レベルの把握				
	気道確保				
	人工呼吸				
	閉鎖式心臓マッサージ				
	気管挿管の準備と介助				
症状・生体機能管理技術	止血				
	チームメンバーへの応援要請				
	バイタルサイン (呼吸・脈拍・体温・血圧) の観察と解釈				
	身体計測				
	静脈血採血と検体の取扱い				
	動脈血採血の準備と検体の取扱い				
	採尿・尿検査の方法と検体の取扱い				
苦痛の緩和・安楽確保の技術	血糖値測定と検体の取扱い				
	心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理				
	パルスオキシメーターによる測定				
	安楽な体位の保持				
感染予防技術	電法等身体安楽促進ケア				
	リラクゼーション				
	精神的安寧を保つための看護ケア				
	スタンダードプリコーション (標準予防策) の実施				
	必要な防護用具 (手袋、ゴーグル、ガウン等) の選択				
	無菌操作の実施				
安全確保の技術	医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い				
	針刺し事故防止対策の実施と針刺し事故後の対応				
	洗浄・消毒・滅菌の適切な選択				
	誤薬防止の手順に沿った与薬				
	患者誤認防止策の実施				
	転倒転落防止策の実施				
	薬剤・放射線暴露防止策の実施				

## 研修方法

現場での教育(OJT)、集合研修(Off-JT)、自己学習を適切な形で組み合わせる。講義形式のものに関しては、通信教育やeラーニング研修などのITを活用した方法もある。

また、Off-JT→OJT OJT→Off-JTのスパイラル学習は効果があると言われていることから、Off-JTとOJTは研修目標に合わせて組み合わせることが適当である。

## 研修評価

### 【評価の考え方】

新人看護職員の評価は、修得してきたことの確認をするとともに、フィードバックを行い、新人看護職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために行うものである。評価者は、新人看護職員と一緒に考え、励ます姿勢で評価を行う。

### 【評価方法】

評価は、自己評価に加え実地指導者や教育担当者による他者評価を取り入れる。

評価には、到達目標に関するチェックリストなどの評価表(自己評価及び他者評価)を用いることとし、総括的な評価を行うにあたっては面談等も適宜取り入れる。

評価は、その時にできない事を次に出来るようにするためのものであり、基本的にはポジティブフィードバックを行う。例えば、技術が出来たか、出来なかったかのみを評価するのではなく、次の行為につながるように出来たことを褒め、強みを確認し励ますような評価を行う。

最終評価は、看護部門の教育担当者又は各部署の所属長が行う。また、新人看護職員研修終了時には、所属部署や施設単位で修了証を発行するなどの方法もある。

## 研修プログラムの例

研修項目	方法	時間	4月(入職時)～数日間	4月～6月	7～9月	10～3月
1.新人看護師研修の概要	講義	1時間	・目標と計画 ・研修手帳の活用方法			
2.看護師として必要な基本姿勢と態度	講義・演習	3時間	・患者の権利と看護師の責務 ・看護師の倫理綱領 ・接遇			・実践の振り返り
3.技術的側面	清潔・衣生活援助技術 創傷管理技術	講義・演習	6時間		・スキンケア	・褥瘡の予防:リスクアセスメント, 体圧分散等
	与薬の技術	講義・演習	6時間	・皮下注射, 筋肉内注射 ・点滴管理: 薬剤準備, ボトル交換, 挿入部の固定, 輸液量の計算等 ・輸液ポンプ, シリンジポンプの使い方	・点滴静脈内注射 ・薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む)	・輸血の準備, 輸血中と輸血後の観察
	救命救急処置技術	講義・演習	4時間	・急変時の対応: チームメンバーへの応援要請等 BLS/AED		
	症状・生体機能管理技術	講義・演習	6時間		・静脈血採血	・フィジカルアセスメント ・心電図モニター
	感染防止の技術	講義・演習	2時間		・スタンダードプリコーションの実施	
	その他配属部署で必要な看護技術	OJT		配属部署で必要な看護技術		
4.管理的側面	安全管理 災害・防災管理	講義・演習	3時間	・医療安全対策: 組織の体制、職員を守る体制、事故防止策、発生時の対応等 ・消火設備		
	情報管理	講義・演習	3時間	・個人情報保護	・診療情報の取り扱い ・記録	
研修の振り返り フォローアップ		1時間		・振り返り	・振り返り	・振り返り

